

平成29年度 北海道滝川高等学校定時制課程 年度末反省会議資料(生徒指導部)

領域	番号	目標	本年度の具体的方策	評価平均	分掌平均	達成度評価			分掌・係としての達成度評価についての自己分析	達成のための取組方法の改善や開始時期について
						Aの個数	Bの個数	Cの個数		
生徒指導部	1	基本的生活習慣の確立とあいさつの励行	規律ある生活の指導に努める。	3.4	3.5	6	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 授業や行事、集会などでも大きく規律を乱すようなこともなく、落ち着いた学校生活を送っていた。 遅刻や欠席の多い生徒が数名いたので、今後は少しでも改善していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年だが遅刻や欠席の多い生徒に対し、担任だけでなく指導部としても関わることで、改善できるように働きかけていくことも必要である。
	2		社会規範を守り、自らの言動に責任を持てるよう指導する。	3.5		6	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に続き今年度も特別指導が1件も無く、学校や社会のルールを守れていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しの乱れや、ささいな違反が大きな過ちに繋がることを意識させる指導を続けていく。
	3		自他の生命や人格を尊重し、行動することのできる生徒の育成を図る。	3.6		6	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 他人が傷つくような言動を発することなく、より良いコミュニケーションをとることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校などの現実社会だけでなく、ネットワークやSNSによるコミュニケーションについても指導をしっかりとっていく必要がある。
	4		あいさつの継続した指導に努める。	3.5		6	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 教員側からの声掛けの成果もあり、登校時や廊下ですれ違う際に自ら挨拶ができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して指導をおこなっていく。
	5		言葉遣いや礼儀作法の継続した指導を心がける。	3.4		6	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 先生が継続して指導してきた成果が現れ、今年度は乱暴な言葉や無礼な態度をとる生徒がほとんど見かけられなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して指導をおこなっていく。
	6	教育相談の充実といじめ防止の取り組み	日頃より生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒理解に努める。	3.6		7	3	0	<ul style="list-style-type: none"> 全ての先生が生徒と積極的に触れ合い、また、情報も共有することができているため、全体での生徒理解に努めることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業以外での場面などから重要な情報を得られることもあるので、より生徒とのコミュニケーションを図っていき、生徒理解に努めていくことが重要である。
	7		特別支援教育について研修を深め、生徒理解に基づいた生徒指導に取り組む。	3.5		7	3	0	<ul style="list-style-type: none"> SVなどによる校内研修を実施し、特別支援を要する生徒に対する知識や対応を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も校内外の研修を積極的に活用することで、組織的に幅広く対応することができるようにする。
	8		不登校や特別な支援を必要とする生徒に対する指導に手厚く取り組む。	3.4		7	3	0	<ul style="list-style-type: none"> 年度途中ではあったが、特別な支援から通常の指導で対応することができた。 不登校の生徒に対しては、担任及び教頭による対応に任せていたところが大きかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 難しい問題だが、特別な支援が本当に必要かどうかの見極めが重要であり、そのためにも外部機関等との連携をしっかりと図る必要がある。
	9		日常の生徒観察や情報交換を適切に行い、いじめのない生徒集団を形成する。	3.6		8	2	0	<ul style="list-style-type: none"> 今年度もいじめの案件が一件もない生徒集団であった。これも先生方による日常の細かな生徒観察による成果だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの高い意識がいじめのない学校をつくっているという誇りと自覚を持たせ、今後も自他の生命を大切にできる生徒の育成を続けていく。
	10	保護者及び関係機関との連携	保護者や関係機関との情報交換が適切に行われるなど、組織的な生徒指導に取り組む。	3.4		7	3	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携の多くは担任であり、指導部として係わることは今年度なかった。 外部の関係機関との連携はしっかりとれ、各行事や講演は有効的に実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も外部機関との連携を図り、行事等を有効に活用していく。 担任で対応できない場合は、組織的に対応できる準備をいつでもしておく。
	11	生徒会活動の活発化と積極的な取り組み	生徒の主体性を生かした生徒会活動を推進させる。	3.4		6	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 年度の計画どおり実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭におけるバザーとの関わりを見つけたい。
	12		生徒一人一人が積極的に取り組める生徒会行事が企画・運営されるよう指導する。	3.4		6	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 企画・運営についてはできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年同じ内容にならないように工夫する。
	13		HR、各委員会等を活用した組織的・系統的な活動体制を構築させる。	3.2		6	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 保健係について指導できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度の計画で実施可能なことを考える。
		その他、分掌として他の分掌や管理職に求める事項等								